

# 大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学  
教職支援センター

第119号

2018. 1. 25

## 「教師になる」ということ

大谷大学 教職支援センター副センター長 教育・心理学科教授 市川郁子

学校の教育を考えたときに、一番大切にしなければならないのは何でしょうか。それは、子どもの命を守ることです。子どもの安全を確保することは学校にとって至上命題です。管理職はもとよりすべての教職員には代理監督義務が課されており、安全配慮義務違反は法律上の責任が問われます。しかし、教育活動そのものには一定の危険が含まれており、学校現場では日々、多種多様なトラブルが生じているのも事実です。危険があるからということで子どもをそれらから遠ざけておけばよいということでは教育活動はできません。教育活動は常に危険と裏腹の関係にあります。子どもたちには様々な体験を通して困難なことを乗り越えたり、自分の限界に挑んだりできる機会を与えることが必要です。その時に教師が行わなければならないことが、『見極める』ことです。子ども一人一人の心身の状況や能力について見極めること、活動に伴って起こりうる状況を見極めることにより危険を回避することができます。教師の見極め不足による事故は絶対に防がなくてはなりません。そして、日常的な安全教育を徹底し、子どもたちに自分の安全はできる限り自分で守れる力を育てることも必要です。学校における事故等を未然に防ぐという観点と、もし事故等が生じた場合はその被害を最小限に抑えるという観点からの危機管理意識を持ってほしいと思います。

また、子どもの心の荒れが学校全体の危機につながることもあります。「子どもの心の荒れにつながるものはないか」という視点をもって学校施設、学級経営を見極めることが大切です。子どもに「ちょっと悪さをしてやろう」と思わせてしまうような施設の状況になっていないか、風通しがよく、空気の良い

学級になっているか等を確認してください。

よい授業を通して子ども同士の人間関係をきずくことが子どもの居場所をつくることにつながります。子どもの思いを感じ取れるアンテナをもつこと、子どもへの眼差し、言葉かけは「あなたのことを見ているよ」「あなたのことを信頼しているよ」という思いを込めて子どもに届けてください。日々子どもが過ごす学級の掲示物に破損や汚れはないか、みんなの作品を掲示し、誤字のある学習ノートを修正もせず掲示していることがないようにしてください。



子どもの頃に素晴らしい先生に出会えたことで、教師を目指そうと考えた人もたくさんいるはず。子どもたちの大切な命を預かり、確かな学力と健やかな心身を育てていくことに責任と自覚をもち、「なりたい大人像」を自分が示していくのだという意味をもってください。自身の視野を広げる機会を大事にし、学び続ける姿勢をもち、子どもたちに質の高い学び、学習内容の深い理解、生涯にわたってアクティブに学び続ける姿勢を育てていける指導力を身に付けてほしいと思います。

そして、教師である前に一人の人間としての器を大きくすることです。素直さや謙虚さ、自分に対する厳しさをもち、人に対してきちんと向き合い、コミュニケーションがとれる人であってください。

# 《こんな先生になります》

( ) 採用内定自治体

《相互に認め合える学級づくりのできる先生に》 教育・心理学科 東 花純 (京都府・小学校)



個性は、個々の良さだけでなく課題も含めたことだと考えています。それは、当然個々に違いがあり、その違いがそれぞれの輝きに繋がることを子どもたちに伝えたいのです。人に認められることは、大きな自信に繋がります。毎日の学校生活の中で、子どもが自信を持って生き生きと活動できる空間をつくっていききたいです。

そのためには、私自身がありのままの姿で子どもと向き合い、共に成長していく先生でありたいです。コミュニケーションを大切にして、喜び合い助け合って、子どもに支援のできる努力をしていきます。

《子どもの目線に立てる先生に》

教育・心理学科 田中 芳 (滋賀県・小学校)



私には、得意な事もあれば苦手な事もあります。好きな事も嫌いな事もあり、できる事もできない事もあります。そんな、ありのままの自分を素直に見せて、子どもたちと接しようと考えています。自然の姿勢が、子どもたちの心に近づけると思っています。

大学生活の中で、自分をさらけ出せる友を得ました。お互いに素直に接することができます。やがて信頼関係が深まっていきました。教師と子どもたちの関係も、素直な気持ちで信頼を深めていくと思います。子どもが「楽しい」「嬉しい」思いを持った時、素直に共感し子どもの目線に立って行動できる先生になります。

《生徒と共に成長し続ける先生に》

文学科 柴田 紗也香 (大阪府・中学校 - 国語)



子どもたちは、人と関わりながら行動し挑戦していきます。私は、そんな子どもたちの気持ちや状況を受け止め・理解し、時々の指導に活かしたいと考えています。

四月から多くの子どもたちと出会います。それぞれが異なる価値観を持ち、通学して行くことでしょうか。私は、子どもたちと真剣に向き合うために、自分の考えや視野を広げていきたいと思っています。私の教師としての経験の不足を子どもたちに接することによって、常に学んでいきたいと考えています。私らしく精一杯行動し、喜びも多く持てるよう子どもたちと共に成長し続けます。

《笑顔と言葉を大切にする先生に》

教育・心理学科 中川 純一 (奈良県・小学校)

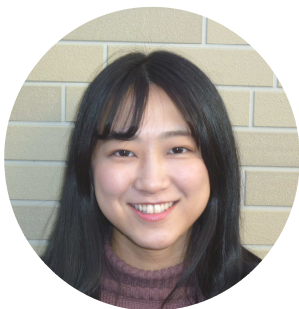


笑顔は、人を幸せにする力があります。学校ボランティアで、子どもたちの前では、いつも笑顔でいることに心がけていました。すると、ある子に「先生がいつも笑顔だから最高!」と言われました。振り返ると、周りの子もみんな笑顔でした。

教育実習で出会った学級は、お互いにそれぞれの「すばらしい」行動を言葉で伝えあっていました。言葉にすることの大切さを学びました。学級の子どもたちは、常に笑顔であふれていました。

あらためて、「笑顔」と「言葉」を大切にしていこうと思いました。

《子どもの思いに寄り添い、支援できる先生に》 教育・心理学科 若林 結衣（京都市・小学校）



私は、総合育成支援員として、多くの子どもと関わってきました。この経験は、私の教職への思いを一層強くしてくれました。

子どもたちは、様々な思いを抱えて登校してきます。その中で、障がいがあり、家庭環境にも課題のある子どもに出会いました。その子は、自分の気持ちに素直になれず、思い以外のことをしてしまうのでした。私は初めの頃、関わり方に悩みましたが、粘り強く接するように心がけ、言動の中から子どもの思いや願いをくみ取ろうと努力しました。この貴重な経験を今後も活かし、子どもに具体的に支援のできる先生になります。

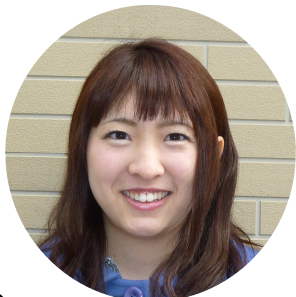
《子どもらしさを大切にする先生に》 教育・心理学科 九野 駿（京都市・小学校）



私は、「挨拶」「返事」「掃除」「笑顔」を実行できる学級づくりを目指します。どの言葉も行動が伴い、コミュニケーションが深まると考えています。

「挨拶」は人との出会いであり、「返事」は会話に繋がります。「掃除」は環境を整え人や物を大切にする心を育み、「笑顔」は人と人をつなげる力を持っています。どれも当たり前の事柄ですが、当たり前のできる事が子どもたちの生活の基盤です。そんな環境づくりを先頭に立って実行し、子どもの「自分らしさ」を大切にしたい教育を進めます。

《子どもと共に歩み、成長していく先生に》 教育・心理学科 榎 小夏（大阪府・小学校）



私の大学生活は、教師を目指す私にとって貴重な期間でした。力を入れた部活動では、「相互に認め合う大切さ」を学習し、やり抜く責任感や行動力の必要性を感じました。また、入学当初から学校ボランティアに参加し、何事にも一生懸命に行動する子どもたちに出会いました。そこでコミュニケーションや向き合うことの難しさを知りました。

この貴重な経験を活かして、しっかりと子どもと向き合い、子どもの思いを大切にしながら安心のできる学級づくりを目指します。そして、子どもと共に歩み成長していける先生になります。

《何が大切かを伝えられる先生に》 文学科 上橋 真教（滋賀県・高校 - 国語）



教師の仕事の柱となる「学力」「生きる力」を育むために、私はその必要性を具体的に話し「どんな方法で」「どう行動するか」を生徒と話し合いたいと考えています。教師は、生徒が自ら考え自分のものにしていくために、「大切なことは、どんなことなのか」を伝えていくことが不可欠です。教師の思いや考えを伝え、生徒自身が何をすべきかを見出していくことが重要であると考えています。私は、自分の経験を通して話し、実感を伴って語れる先生を目指します。



## 《子どもの支えになる先生に》

教育・心理学科 羽田 毅（大阪府・小学校）



私は、失敗を恐れず前向きに行動していける学級集団を育てたいと考えています。子どもたちにとっての学校生活は、困難にも出会う反面、前向きに挑戦する機会も多くあるはずです。私は、どんな場合にも何かに向かって努力する子どもたちの支えになりたいと考えています。さらに、学級全体で応援し、挑戦することの大切さを皆で感じたいと思います。「一人はみんなのために、みんなは、一人のために」という考え方で行動する素晴らしさを全員で共有したいのです。

## 《子どもに寄り添う先生に》

教育・心理学科 谷川 優香（大阪府・小学校）

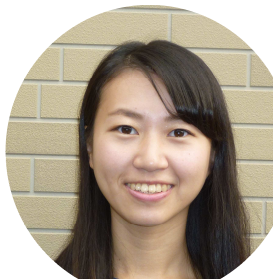


「子どもの立場に立って考える」「子どもの背景を理解して働きかける」ことを目標にします。この意識が、信頼関係を築いていけると考えています。一人一人を大切にしたい誰かが「解かる授業」を目指して、教材研究を積み重ねたいと考えています。

学校ボランティアや教育実習で学んだことを活かし、学習環境や生活環境を整備しながら学級づくりに励みます。残された卒業までの時間を「子どもの理解」や「支援の方法」などをしっかり勉強していこうと思っています。

## 《子の思いを大切に先生に》

教育・心理学科 赤尾 美保（滋賀県・小学校）



教育実習やケアサポートで子どもたちと接して、「見えている子どもたちの行動や言葉は、本当の気持ちではないときがある」ことを学習しました。

小2のA君は、私から挨拶をしても、話しかけても、無視をする男の子でした。友だちにも、嫌な言葉がけや行動をとります。誰にも心を閉ざしているように見えます。私が毎日声掛けをしていると、目を合わせるようになり、返事をするようになり、少し会話もできようになりました。思いが通じてくると、A君の暴言も減っていきました。

私は、子どもの本当の思いをくみ取り、支えていこうと考えています。

## 《子どもの持つ可能性を伸ばす先生に》

教育・心理学科 西川 智子（滋賀県・小学校）



学校ボランティアで子どもに接していると、自分の不得意なことには消極的な言動をしてしまう子がいます。私は、子どもが「自分に自信を持つこと」の大切さを感じています。機会あるごとに、「失敗してもだいじょうぶだよ」「自分を信じて、やっごらん」と言い続けたいと考えています。

子どもが、自分の可能性に気付き、積極的に行動していけることが大切です。そのためには、教師としての私が、子どもの可能性を信じて支援していきます。

## 《子どもがホッとできる先生に》

教育・心理学科 藤田 真穂（長浜市・幼稚園）

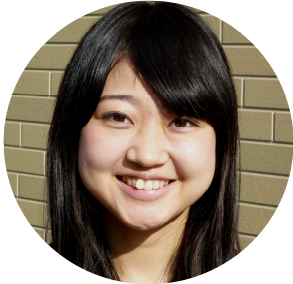


私は、子どもが大好きで地元の幼稚園の先生になることを強く希望してきました。

子どもたちは、日によって体調や精神的な安定感がちがいます。子どもたちの登園時には、私の顔を見て「ホッ」とでき、帰るときには「今日は、楽しかった」と思える環境を私は、つくっていききたいと考えています。そのためには、先輩の先生方の実践を学び、保育に関する研究も重ねて自分の保育力を高めていきます。「子どもが大好き」という初心を忘れず、子どもと一緒に成長していきます。

## 《子どもに信頼される先生に》

教育・心理学科 安喜 美沙子（滋賀県・小学校）



私は、特別支援学校小学部の教育実習で、「子ども理解」の大切さを強く感じました。授業をする上でも、子どものことをよく理解していなければ「手立て」の具体化ができません。「ねらい」も達成できず、評価の基準もあいまいになります。

私は、子どもたちが自分のことを「先生にたくさん話したい」「先生に見せたい」と思う教師を目指します。そのためには、目の前の子どもの理解を大切にする姿勢を常に持ち、信頼を築いていきます。

## 《「思いやりの心」を育む先生に》

教育・心理学科 大寄 明（守山市・幼稚園）

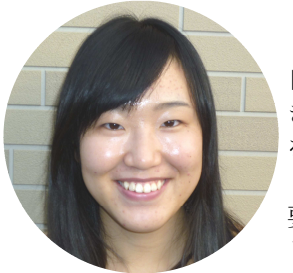


今までに家族をはじめ、先生や友達等、多くの人に出会ってきました。人の優しさや温かさに触れて、苦しさから救われた思いを持ったことが幾度もありました。優しさや温かさは、相手のことを思いやる気持ちから生まれると思います。私は、そんな「思いやる心」を子どもたちに持ってほしいと考えています。

そのためには、私自身が子どもたちの思いを大切にくみ取り、保育に取り組みたいと思います。「思いやりの心」を大切にしながら、先生方、保護者と協力して子どもたちを支えていきます。

## 《個の将来を見据えた教育を進める先生に》

教育・心理学科 村中 美晴（大阪市・小学校）



特別支援サポーターを始めたころ、私は、子どもが困るとすぐに手伝っていました。靴を自分ではけるのに、手伝われたために自分ではかなくなりしました。担任の先生に「一人できることは、させること。できないことは少しの支援を」と指導されました。できないことを少しでもできるようになるための準備の大切さを学びました。

子どもにとって、本当に必要な支援はあります。しかし、それぞれの子どもは成長し、必要な支援も変化します。子どもの成長する姿をしっかり見つめながら、今後役に立つ指導をしていきます。

## 《深い愛情を持つ先生に》

教育・心理学科 大乘 香（京都市・小学校）



私は、子どもたちに「思いやりの心」を育みたいと考え教師を志しました。

子どもの心を真に理解することは、難しいことです。しかし、「自分だったら」の思いを持って子どもに寄り添うことができれば、「優しさ」となり、心が通い合うと思います。

子どもが意欲的に活動するとき、一生懸命に行動します。やがて達成感を持ったり仲間と喜び合ったりする反面、思いがぶつかり合って傷ついたりもします。私は、子どもたちの本音がぶつかり合う学級をつくります。その環境の中で「思いやり」や「優しさ」を育み、愛情を持って子どもたちを見守っていきます。

## 《「人を大切に」を念頭におく先生に》

教育・心理学科 堤 有里紗（滋賀県・小学校）



教育課題の一つに、「コミュニケーション力の低下」が言われています。人はお互いに協力し合いながら成長していきます。友だちが困っていたり悩んでいたりと、「何とかしたい」という思いが湧いてきます。この気持ちを大切にしたいと考えています。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を念頭に、「人を思い、助け合える学級づくり」を目指します。そして、「友や学級のために、自分に何が出来るか」を考えられる児童を育てていきます。

## 《子どもと共に成長していく先生に》

教育・心理学科 片山 祥子（京都市・小学校）



教育実習校で、「聴く」ことを大切にされた教育実践を学びました。子どもたちは、意欲的で生き生きと活動していました。お互いに丁寧に「聴き合う」ことで、学級の中に安心感と居心地の良さが生まれます。友の意見を「聴き」、自問自答をして、自分の意見が言えるようになってきます。周囲の意見を受け止め自分の思いを膨らませることは、とても大切なことだと思うのです。私は、この貴重な体験を今後活かそうと考えています。私自身も子どもの考えや行動から、深く考えられるようにし、子どもと共に成長していきます。

## 《子どもを第一に考える先生に》

教育・心理学科 上野 竜太郎（大阪府・小学校）



私は、4月から憧れの先生になります。今は、大きな希望と大きな不安で頭の中がいっぱいです。

私は、以前から考えていたことがあります。子どもには、「学校が楽しい」「学校が好き」と感じて登校してほしいと願っています。そのためにも、子どものことを第一に考えて学級づくりや授業の工夫に全力で取り組んでいきます。子どもに寄り添い、一緒に喜んだり悩んだりできる関係をつくりたいと考えています。まずは、『笑顔の絶えない教師』からスタートします。

## 教職をめざす皆さんへ

教職支援センター アドバイザーから

12月の後半になると書店の入り口近くにズラリと新しい年の日記帳や手帳が並びます。多くの人が、年の初めに「今年の夢を託して」気に入った日記帳を購入します。

記入前の日付に皆さんは、どのように書き記（しる）していくのでしょうか。今年の採用試験までは、約5ヶ月余りを残すばかりです。特に3年生は、これからの1日1日の行動が、今後の方向を決める大切な時間となります。本気の心と顔を持って、今年をスタートしましょう。

はっきりした目標(校種や受験地等)を決めていくときです。家族や友や先生に相談しながら自信を持って決定をしましょう。そして、自分に合った計画を立て、実行していきましょう。支援センターのアドバイザーは、あなたの夢の実現を願っています。教採に向けての支援を惜しみません。是非、訪ねてください。

## 教職支援センター 今後の予定

春の面接セミナー（2回講習 要申込み）

2月 8日（木） 60分 面接試験の視点、面接の内容、等

2月 28日（水） 120分 個人面接演習（グループ別）

志願書記入説明会（地域別、事前申し込み不要）－3年生対象－

3月 8日（木） 京都府・京都市

3月 9日（金） 滋賀県

3月 12日（月） 大阪府・大阪市・豊能地区・堺市

3月 13日（火） 上記以外の都道府県自治体

・志願書の内容について

・志願書の記入について



セミナー・勉強会への積極的な参加を呼び掛けます。  
仲間と励まし合い、刺激し合って学習を重ねましょう。